

終活

ご存知ですか？シリーズ⑬
—後期高齢者の難聴発症率は74%に—

難聴者率は10%、
補聴器普及率は15%



眼が見えなくなると、メガネをかけます。でも耳の聞こえが悪くなると、高齢者はどうしているのでしょうか？その現状と問題点を探ってみました。

Q 3月3日は耳の日です。では、6月6日は？

A 6月6日は「補聴器の日」。日本補聴器工業会と同販売店協会によると、「6」を向かい合せにすると耳の形に見え、聞こえの悪い耳に補聴器というもう一つの耳をつけると、3月3日×2＝6月6日という意味になるので、この日に制定したそうです。

Q 聴力は加齢とともに衰えます。どうすれば良い？

A 加齢にともなう進行する内耳の病を「老人性難聴」といい、内耳の蝸牛にある有毛細胞の数が加齢で減っていくのが原因です。

WHOでは、26dB（デシベル）以上の

音声聞き取りにくくなる時点を「難聴」と定義しています（小さな声や賑やかな場所での会話が聞こえにくい）。

国立長寿医療研究センターによると、老人性難聴の有病率は65歳以上で平均36%、75歳以上で平均69%、80歳以上で平均78%の人が難聴といわれます。

しかし、殆どの高齢者が日常生活の場で集音器や補聴器などを活用する難聴対策をとっていません。

Q 我が国における補聴器の普及率は？

A 日本における難聴者と補聴器の実態調査「ジャパントラック2022」によると、昨年の難聴者率（割合）は10%、補聴器普及率は15%です。

欧米諸国でも難聴者率は10%前後と変わりませんが、補聴器普及率では欧米諸国と大差があり、英国の53%、仏の46%に比べても1/3以下です。

Q どうしてメガネのように補聴器は普及しないのか

A 補聴器を使わない理由のトップ5は①煩わしい ②難聴が余りひどくない ③使っても元の聞こえには戻らない ④購入する余裕がない ⑤騒音下では役に立たぬ。その他には⑥装着するのがはずかしい ⑦形やデザインが良くない ⑧過去に使用したが良くなかった—などもあがっていました。

前述の調査では、欧米諸国の補聴器使用者の約80%が日常生活での装着に満足しているのに、日本人は39%に止まっていることも判明しています。

Q デジタル技術の進展で補聴器も進化したのでは？

A 補聴器には表のとおり4種類あります。昔からあるポケット型から、小さくて目立ちにくい耳あな型や耳かけ型へとニーズが変わっています。音質・音量の自動調整はもとより、騒音やハウリング抑制機能などデジタル化の進展で高性能化も進んでいます。

また、補聴器を使っても聞こえない重度難聴者の場合は、手術で人工中耳や内耳を植え込む治療法もあります。

Q 最後に老人性難聴はどんな方法で調べられますか？

A 難聴が加齢または病気によるものかを耳鼻咽喉科で調べ、補聴器が必要となったら日本耳鼻咽喉学会認定の「補聴器相談医」を受診して下さい。同学会では、補聴器を購入する際は「認定補聴器技能者」がいる補聴器専門店で購入するよう薦めています。

シニアスタッフ 上田篤彦

補聴器の種類と特徴

種類	特徴	メリット・デメリット
耳あな型	耳の穴に入れるタイプ。耳の形にあわせて作るオーダーメイド型。	小型のため目立ちにくい。ハウリングが起きやすい。
耳かけ型	耳の後ろにかけて使うタイプ。種類や機能・デザインなどが豊富。	耳や髪の毛に隠れて目立ちにくい。大小のタイプあり。
ポケット型	ポケットに入れて使うタイプ。操作がしやすく、価格も安い。	箱形の本体が大きく操作も容易だが、コードが邪魔。
メガネ型	メガネ式で、音声を振動で伝える骨伝導型補聴器。価格は高い。	メガネのツル部分が補聴器。伝音難聴者しか使用できぬ。